

知恵の承継 マニュアル

- 知財編 -

支援者向けガイド



特許庁

ガイドラインの構成について(要約)

経営の知恵の承継とは？	事業承継とは、会社の価値（会社が続けてきた理由）を引き継ぐことです。一般的な事業承継の考え方を整理しました
手引書の利用にあたって	支援する皆様に「支援にあたり心がけてもらいたいこと」を整理しました
一般的な事業承継フローと内在するリスク	事業承継において知的資産・知的財産の準備が十分ではないために生じたトラブル事例を紹介します
支援を具体化させるためのヒント	見える化・磨き上げシートのチェック事項をもとに、支援者としての考え方を整理しました
経営の知恵（知的資産・知的財産）の見える化・磨き上げチェックシート（支援者用）	知的資産・知的財産の承継について、経営者や後継者と支援機関や外部専門家といった支援者が一緒になって検討していくことが重要と考え、助言等を行う支援者において参考いただく対策の一例等の情報を整理しました
磨き上げのための支援上のポイント	支援者として経営者に向き合う際の留意点等を整理しました

分類	チェック項目 (経営者によるチェック)	継続的なチェック内容の一例		チェック欄		
		いいえ	はい	いいえ	はい	事業承継準備中 を確認している
1. 準備	事業承継において社内の知恵（知的資産・知的財産）に関する事前準備をしていますか？	事業承継において社内の知恵（知的資産・知的財産）に関する事前準備が必要であることを認識していますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	事業承継に関する知識を社内で共有していますか？	事業承継に関する知識を社内で共有していますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	事業承継を推進するにあたり、経営理念や方針を整理していますか？	事業承継を推進するにあたり、経営理念や方針を整理していますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	事業承継に向けて、事業を推進するにあたり、経営理念や方針を整理していますか？	事業承継に向けて、事業を推進するにあたり、経営理念や方針を整理していますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	事業承継に向けて、事業を推進するにあたり、経営理念や方針を整理していますか？	事業承継に向けて、事業を推進するにあたり、経営理念や方針を整理していますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	事業承継に向けて、事業を推進するにあたり、経営理念や方針を整理していますか？	事業承継に向けて、事業を推進するにあたり、経営理念や方針を整理していますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	事業承継に向けて、事業を推進するにあたり、経営理念や方針を整理していますか？	事業承継に向けて、事業を推進するにあたり、経営理念や方針を整理していますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	事業承継に向けて、事業を推進するにあたり、経営理念や方針を整理していますか？	事業承継に向けて、事業を推進するにあたり、経営理念や方針を整理していますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	事業承継に向けて、事業を推進するにあたり、経営理念や方針を整理していますか？	事業承継に向けて、事業を推進するにあたり、経営理念や方針を整理していますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	事業承継に向けて、事業を推進するにあたり、経営理念や方針を整理していますか？	事業承継に向けて、事業を推進するにあたり、経営理念や方針を整理していますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

経営者
(後継者)

【チェックシートの利用にあたって】

企業経営者は…
チェックシートを利用して、ご自身の会社の事業承継の進め方について確認してみてください。

→ チェックシートそのものについては経営者向けガイドラインを参照ください

支援者は…
経営者や従業員では気がつかないことを率直に質問して自社の特長・強みが資産であることに気づいてもらうように質問します。

→ 本書8ページ以降を参照ください

大分類	課題を チェック	目的 と 目的	取り組むべき課題（一例）		想定されるリスク
			支援者	経営者	
1. 準備	事業承継に関する事前準備をしていますか？	事業承継に関する事前準備を完了しているか？	事業承継に関する事前準備を完了しているか？	事業承継に関する事前準備を完了しているか？	事業承継に関する事前準備が不十分であることによるリスク
	事業承継を推進するにあたり、経営理念や方針を整理していますか？	事業承継を推進するにあたり、経営理念や方針を整理しているか？	事業承継を推進するにあたり、経営理念や方針を整理しているか？	事業承継を推進するにあたり、経営理念や方針を整理しているか？	事業承継を推進するにあたり、経営理念や方針が不明確であることによるリスク
	事業承継に向けて、事業を推進するにあたり、経営理念や方針を整理していますか？	事業承継に向けて、事業を推進するにあたり、経営理念や方針を整理しているか？	事業承継に向けて、事業を推進するにあたり、経営理念や方針を整理しているか？	事業承継に向けて、事業を推進するにあたり、経営理念や方針を整理しているか？	事業承継に向けて、事業を推進するにあたり、経営理念や方針が不明確であることによるリスク
	事業承継に向けて、事業を推進するにあたり、経営理念や方針を整理していますか？	事業承継に向けて、事業を推進するにあたり、経営理念や方針を整理しているか？	事業承継に向けて、事業を推進するにあたり、経営理念や方針を整理しているか？	事業承継に向けて、事業を推進するにあたり、経営理念や方針を整理しているか？	事業承継に向けて、事業を推進するにあたり、経営理念や方針が不明確であることによるリスク
2. 実行	事業承継を機に、自社の事業戦略の見える化・見直しについて検討していますか？	事業承継を機に、自社の事業戦略の見える化・見直しについて検討しているか？	事業承継を機に、自社の事業戦略の見える化・見直しについて検討しているか？	事業承継を機に、自社の事業戦略の見える化・見直しについて検討しているか？	事業承継を機に、自社の事業戦略の見える化・見直しについて検討しないことによるリスク
	事業承継やビジネスモデルの見直しは、後継者に引き継ぎたいとお考えですか？ また、そのことを後継者に伝えてありますか？	事業承継やビジネスモデルの見直しは、後継者に引き継ぎたいとお考えですか？ また、そのことを後継者に伝えてありますか？	事業承継やビジネスモデルの見直しは、後継者に引き継ぎたいとお考えですか？ また、そのことを後継者に伝えてありますか？	事業承継やビジネスモデルの見直しは、後継者に引き継ぎたいとお考えですか？ また、そのことを後継者に伝えてありますか？	事業承継やビジネスモデルの見直しを後継者に伝えず、後継者が不明確なまま事業承継することによるリスク
	事業承継に向けて、事業を推進するにあたり、経営理念や方針を整理していますか？	事業承継に向けて、事業を推進するにあたり、経営理念や方針を整理しているか？	事業承継に向けて、事業を推進するにあたり、経営理念や方針を整理しているか？	事業承継に向けて、事業を推進するにあたり、経営理念や方針を整理しているか？	事業承継に向けて、事業を推進するにあたり、経営理念や方針が不明確であることによるリスク
	事業承継に向けて、事業を推進するにあたり、経営理念や方針を整理していますか？	事業承継に向けて、事業を推進するにあたり、経営理念や方針を整理しているか？	事業承継に向けて、事業を推進するにあたり、経営理念や方針を整理しているか？	事業承継に向けて、事業を推進するにあたり、経営理念や方針を整理しているか？	事業承継に向けて、事業を推進するにあたり、経営理念や方針が不明確であることによるリスク
3. 完了	自社のブランディング戦略について引き継ぐ準備ができていますか？	自社のブランディング戦略について引き継ぐ準備ができていますか？	自社のブランディング戦略について引き継ぐ準備ができていますか？	自社のブランディング戦略について引き継ぐ準備ができていますか？	自社のブランディング戦略について引き継ぐ準備が不十分であることによるリスク
	自社のブランディング戦略について引き継ぐ準備ができていますか？	自社のブランディング戦略について引き継ぐ準備ができていますか？	自社のブランディング戦略について引き継ぐ準備ができていますか？	自社のブランディング戦略について引き継ぐ準備ができていますか？	自社のブランディング戦略について引き継ぐ準備が不十分であることによるリスク

支援者

当初より、外部専門家を活用するなど外部の知恵を活用したブランディングの検討に着手する。顧客に伝えるべき自社の価値を示す内容や方法を明確にし（言語化含む）、社内の意識共有や統一した活用を図る。

目次

要約	2p
序. 経営の知恵（知的資産・知的財産）の承継がうまくいかないと…	3p
1. 経営の知恵（知的資産・知的財産）の承継とは…	4p
2. 手引書の利用にあたって	5p
3. 一般的な事業承継フローと内在するリスク	5p
4. 支援を具体化させるためのヒント	6p
5. 経営の知恵（知的資産・知的財産）の見える化シート（支援者用）』	8p
6. 磨き上げのためのプレスト上のポイント	58p

序. 経営の知恵(知的資産・知的財産)の承継がうまくいかないと …(イントロダクション)

ベテラン技術者の保有ノウハウの特定・整理ができていないまま
事業承継を実施した。まもなくベテラン技術者が定年退職した後、
売れ筋商品の加工ができなくなり、納期に間に合わない事態へ…

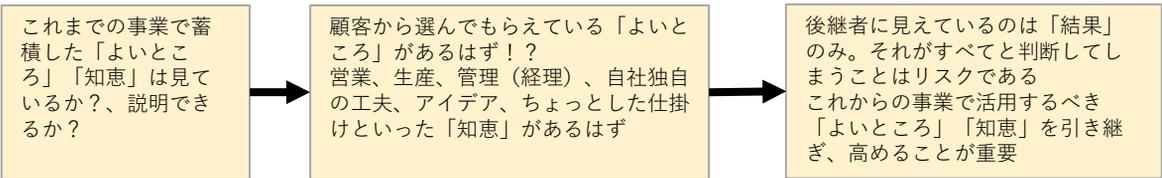
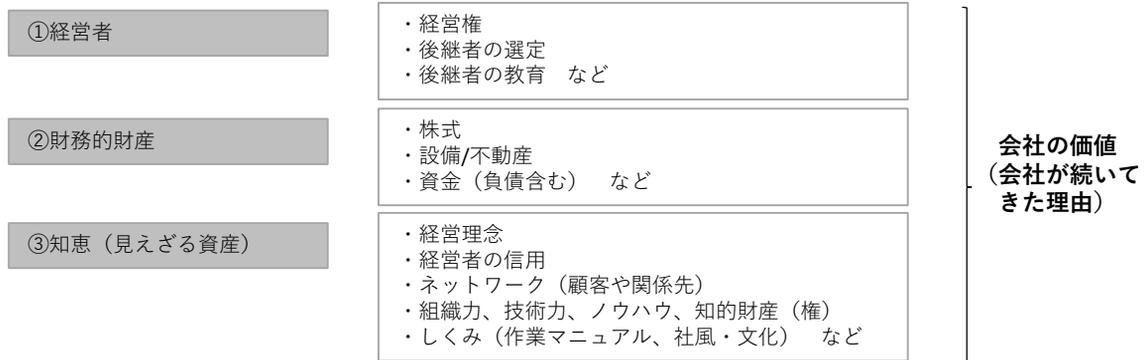
経営者と後継者のコア技術に対する認識が不一致なまま承継を実施。
知的財産権の維持・廃棄の判断ができず、維持が不可欠な特許権の
維持活動を失念してしまった。まもなく、国内競合から類似商品が…

どのような支援が必要だったのか？

1. 経営の知恵(知的資産・知的財産)の承継とは…

事業承継とは、会社の価値（会社が続けてきた理由）を引き継ぐことです。一般的な事業承継の考え方は以下の様に整理することができます。

会社の価値（会社が続けてきた理由）は様々な要素があります（下図参照）。これらの価値は企業や事業を支える『知恵』と位置づけることができます。例えば、経営理念のなかには現経営者の考え方や方針なども含まれます。



2. 手引書の利用にあたって

支援する皆様に「支援にあたり心がけてもらいたいこと」を整理しています。

- ①事前準備の重要性・必要性の認識を持たせること
- ②知的資産・知的財産の「見える化」について、チェックシートを基にコミュニケーションを図ること（項目は適宜加除して運用することで構わない）
- ③知的資産・知的財産の「磨き上げ」について、知財専門家からの助言を活用するようすすめること（支援者が知財専門家以外の場合）
- ④「磨き上げ」について、その先のビジネスでの活用方法についてなるべく具体的に検討するよう勧めること（今後利用しない技術は思い切って捨てる判断も重要と諭すこと）
- ⑤承継着手から完了までの時期をなるべく具体的にすること（知財権の存続期間を確認しつつ整理するように助言する）

3. 一般的な事業承継フローと内在するリスク

事業承継において知的資産・知的財産の準備が十分ではないために生じたトラブル事例を紹介します。こうしたトラブルを未然に回避するための取組の重要性を説明してください。

×事業承継後に同じ製品がつくれなくなった

例) ベテラン技術者の保有ノウハウの特定・整理ができていないため、その技術者の長期休養（急な病気により数週間入院）に入るとともにその技能にもとづく加工技術の実施が不可能となった。

×製品製造に不可欠な特許権を失効させてしまった

例) 経営者と後継者のコア技術に対する認識が不一致であったため、知的財産権の維持・廃棄の適切な判断ができず、維持が不可欠な特許権の維持活動を失念してしまった。

×事業承継前に先代が大企業と共同開発した技術を用いた製品製造を大企業から依頼されたが先代が不在なため製造ができなかった。

例) 先代経営者に蓄積された技術情報や開発ノウハウが後継者伝えられず、再現性が確保できていないことが判明した。

4. 支援を具体化させるためのヒント

見える化・磨き上げシートのチェック事項をもとに、その企業の事業承継に対する理解や取組の現状を把握するための具体的な質問をしてみてください。

見える化ができた知的資産・知的財産より、今後磨き上げが必要・優先度が高いと判断できる事項についてはその進め方について検討を促すよう助言してみてください。

知的資産・知的財産の見える化・磨き上げ チェックシート を用いた支援イメージ

分類	チェック項目 (経営者によるセルフチェック)	具体的なチェック内容の一例	チェック欄		
			1/4/3	はい	左欄の項目に該当している
1. 準備	事業承継において社内の知能（知的資産・知的財産）に関する事前準備はしていますか？	事業承継において社内の知能（知的財産）に関する事前準備が必要であることを認識していますか？ 事業承継に関する知識を社内共有していますか？（経営者自ら情報発信をしている等） 事業承継を実施する際必要な知識を定めていますか？（知能を蓄積している等）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	承継を機に、自社の事業戦略の見える化・見直しについて検討していますか？	承継を機に自社のビジネスモデルを見直し、その準備ができていますか？ 前事業やビジネスモデルの見直しは、後継者に引き継ぎたいとお考えですか？ また、その点を後継者に伝えていますか？ 事業承継に向けて、経営理念や方針を整理していますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2. 見える化	社内の知能（知的資産・知的財産）を承継するための人員（後継者、後継者のサポート人員）は確保されていますか？	どのような方法で事業承継を行うかを定めていますか？（経営者、関係先、従業員、後継者など） 後継者をサポートする人員を確保できますか？（社内には確保するほか、外部の専門家も活用していますか？）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	承継対象の知的資産・知的財産「見える化」が完了するまでの進捗は確認されていますか？	「見える化」を完了するまでの進捗を確認していますか？（見える化「見える化」を完了する進捗が確認されていますか？） 「見える化」の進捗を確認していますか？ 「見える化」の進捗を確認していますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3. 磨き上げ	事業承継について、悩みや課題を相談できる専門家・支援機関が活用されていますか？	事業承継に関する悩みや課題を相談できる専門家や支援機関はいますか？ 知的資産・知的財産の「見える化」のための知見が確保されているか、専門家・支援機関を活用していますか？ 知的資産・知的財産の「見える化」のための知見が確保されているか、専門家・支援機関を活用していますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	事業承継について、「知的財産」の観点から、知能や知能を蓄積できる専門家、支援機関を知っていますか？	事業承継に関する悩みや課題を相談できる専門家や支援機関はいますか？ 知的資産・知的財産の「見える化」のための知見が確保されているか、専門家・支援機関を活用していますか？ 知的資産・知的財産の「見える化」のための知見が確保されているか、専門家・支援機関を活用していますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

経営者
(後継者)

【チェックシートの利用にあたって】

企業経営者は…
チェックシートを利用して、ご自身の会社の事業承継の進め方について確認することを促してみてください。

支援者は…
経営者や従業員では気がつかないことを率直に質問して自社の長・強みが資産であることに気づいてもらうように質問します。

大分類	中分類	小分類	目的	着目するべき課題（一例）	想定されるリスク
1. 準備	事業承継に関する事前準備	承継を機に、自社の事業戦略の見える化・見直しについて検討していますか？	承継を機に、自社の事業戦略の見える化・見直しについて検討していますか？	承継を機に、自社の事業戦略の見える化・見直しについて検討していますか？	承継を機に、自社の事業戦略の見える化・見直しについて検討していますか？
		前事業やビジネスモデルの見直しは、後継者に引き継ぎたいとお考えですか？	前事業やビジネスモデルの見直しは、後継者に引き継ぎたいとお考えですか？	前事業やビジネスモデルの見直しは、後継者に引き継ぎたいとお考えですか？	前事業やビジネスモデルの見直しは、後継者に引き継ぎたいとお考えですか？
2. 見える化	承継対象の知的資産・知的財産の見える化	社内の知能（知的資産・知的財産）を承継するための人員（後継者、後継者のサポート人員）は確保されていますか？	社内の知能（知的資産・知的財産）を承継するための人員（後継者、後継者のサポート人員）は確保されていますか？	社内の知能（知的資産・知的財産）を承継するための人員（後継者、後継者のサポート人員）は確保されていますか？	社内の知能（知的資産・知的財産）を承継するための人員（後継者、後継者のサポート人員）は確保されていますか？
		承継対象の知的資産・知的財産「見える化」が完了するまでの進捗は確認されていますか？	承継対象の知的資産・知的財産「見える化」が完了するまでの進捗は確認されていますか？	承継対象の知的資産・知的財産「見える化」が完了するまでの進捗は確認されていますか？	承継対象の知的資産・知的財産「見える化」が完了するまでの進捗は確認されていますか？
3. 磨き上げ	事業承継について、悩みや課題を相談できる専門家・支援機関が活用されていますか？	事業承継について、「知的財産」の観点から、知能や知能を蓄積できる専門家、支援機関を知っていますか？	事業承継について、「知的財産」の観点から、知能や知能を蓄積できる専門家、支援機関を知っていますか？	事業承継について、「知的財産」の観点から、知能や知能を蓄積できる専門家、支援機関を知っていますか？	事業承継について、「知的財産」の観点から、知能や知能を蓄積できる専門家、支援機関を知っていますか？
		事業承継について、悩みや課題を相談できる専門家・支援機関が活用されていますか？	事業承継について、悩みや課題を相談できる専門家・支援機関が活用されていますか？	事業承継について、悩みや課題を相談できる専門家・支援機関が活用されていますか？	事業承継について、悩みや課題を相談できる専門家・支援機関が活用されていますか？

コラム：事業承継の現場から（支援機関からの提案をきっかけに父子での話し合いを開始）

金属加工を営む中小企業 A 社では、後継者として経営者の息子を就職させ、事業の習得を指示していた。事業承継について具体的な活動と考え始めたときに支援機関から専門家活用を提案され、知的資産・知的財産の整理に着手し、準備を父子で話し合う時間をつくり着実に取り組んだ。このことで経営者と後継者の共通する考え方、相違する考え方を話し合うことになり、後継者に対するあらたな事業への開拓をまかせつつ経営者は承継に向けた準備を本格化させていくこととなった。

参考. 支援者向け参考情報

知的資産・知的財産の承継に関する助言が可能な専門家

・弁理士

知的財産のプロフェッショナル。事業承継において、知的財産権に関する取扱や準備を進めるべきか助言を求めることができます。

・弁護士

企業法務のプロフェッショナル。事業承継において、法務面でどのような準備を進めるとよいか助言を求められます。弁理士と同様の助言ができる方もみえます。

・中小企業診断士（経営コンサルタント）

経営のプロフェッショナル。中小企業等における事業承継全般に関する助言を求められます。ビジネスモデルを検討する際にも方向性を検討する際に助言を求められます。

・ブランド・デザイン専門家

新たな発想で経営の知恵を生かしたビジネスを検討する際に、多様な視点から検討する際に助言を求められます。

知的資産・知的財産の承継に関する支援が可能な支援機関

INPIT知財総合支援窓口

中堅・中小・ベンチャー企業が抱える経営課題や、アイデア段階から事業展開までの知的資産・知的財産に関する課題や相談を、ワンストップで受け付ける相談窓口
知的資産・知的財産の承継について、知財専門家を派遣するなどの支援を行う【相談無料】

（参考URL） <https://chizai-portal.inpit.go.jp/>



※一般的な事業承継に関する支援機関

事業引継ぎ支援センター

後継者不在で事業の引継ぎを検討する中小企業・小規模事業者と経営資源を引き継ぐ意欲のある中小企業・小規模事業者に対して事業引継ぎに係る課題解決に向けた助言、情報提供及びマッチング支援を行う【相談無料】

（参考URL） <https://shoukei.smrj.go.jp/contact>



事業承継ネットワーク事務局

事業承継を実施しようとする際の様々な課題に対応するため、コーディネーターを中心に金融機関や地域支援機関と連携しながら専門家を派遣するなどの支援を行う【相談無料】

（参考URL） <https://shoukei.go.jp/soudan>



5. 経営の知恵(知的資産・知的財産)の見える化・磨き上げチェックシート

○チェックシート作成の目的

企業経営者が事業承継に取り組むにあたり、知的資産・知的財産についてどのような視点を持って検討していただくことが必要となるのか、まず『気づき』を得ることが重要と考えます。このため、経営者ご自身で知的資産・知的財産の承継について検討をはじめていただくためのガイドライン（チェックシート）を作成しました。

他方、事業承継に取り組むにあたり、経営者がお一人で考えるのではなく、支援機関や外部の専門家といった支援者*と一緒に検討していくことが重要と考えます。支援者向けチェックシートは、こうした支援者が経営者とのコミュニケーションを円滑に進めていただくためのツールとして作成しました。

*支援者とは、事業承継の支援を担う金融機関の職員や事業承継の専門家（中小企業診断士等）のほか、知的財産の支援を行う支援機関の職員などを想定しています。

○チェックシートの位置づけ

企業経営者を支援する支援者向けに作成した「支援者向けチェックシート」は、経営者向けのチェックシートと項目を連動させ、その企業において想定される課題や、未対応時のリスク（一例）、事業承継・知財面での対応策（一例）を紹介しています。

支援者は、これらの内容を参照しつつ、経営者と一緒に知的資産・知的財産の承継についてイメージを高めていただくことを期待いたします。

○チェックシートの使い方

支援先の経営者が、事業承継に取り組むにあたり知的資産・知的財産についてどのような準備等が必要か理解していない場合であっても、まずチェックシートを活用してみるように促しましょう。今後検討が必要なこと、承継に向けて必要な準備を理解することができます。

経営者が記入したチェックシートをもとに、今後の事業承継に取り組む際の必要事項等を確認していくことも支援の1つとなります。その際、1. 準備→2. 見える化→3. 磨き上げの順に、自社の事業承継を考えるよう促してください。準備が不十分なまま磨き上げに入ろうとすると思わぬトラブルの種となることを経営者に理解してもらうよう十分に説明してください。

なお、このチェックシートは、知的資産・知的財産に関するチェック項目を中心に整理しています。一般的な事業承継にかかるチェック項目は、「事業の未来を描くためのつなぐノート」（日本政策金融公庫）等を参照してください。

【支援にあたって】

- 経営者ご自身が、チェック項目（経営者向けチェックシート）を確認いただき、「いいえ」、「はい」をチェックして、自社の現状を確認するように促してみてください。また、チェックシートの「いいえ」ついた項目のなかから論点を選び、会社の事業承継の進め方について質問してみてください。
- 経営者のみでチェックせずに、社内の方と一緒にチェックをしてもらうと漏れが抑えられることを助言してみてください。
- 1. 準備→2. 見える化→3. 磨き上げの順に、自社の知的資産・知的財産の承継について考えてみましょう。話題を掘り下げつつ「見える化」を進め、解決すべき課題や準備が未だの事項を選定して「磨き上げ」へとつなげるようにしてください。
- 事業承継・知財面での対応策（一例）は、経営者等に提案する対応策の一例です。支援者の知見から記載以外の提案を加えるなど、柔軟にチェックシートを活用してください。
- 知的資産・知的財産に関する承継を支援する際、より適切な対応策を検討するよう促すことが大切です。対象分野に詳しい専門家の助言を活用することがより着実な成果につながる場合があります。弁理士や弁護士といった知財専門家に相談することを適宜検討するように提案してみてください。

○経営の知恵（知的資産・知的財産）の見える化・磨き上げチェックシート

経営者が記入した見える化・磨き上げチェックシートをもとに、今後の事業承継に取り組む際の必要事項等を確認してみましょう。

1. 準備	2. 見える化	3. 磨き上げ
チェック項目 (大項目)	1 - 1 事業承継において社内の知恵（知的資産・知的財産）に関する事前準備をしていますか？	
チェック項目 (中項目)	①事業承継において社内の知恵（知的資産・知的財産）に関する事前準備が必要であることをご存じですか？	
現状と課題	知的資産・知的財産の承継について事前準備の必要性が理解できていない。事業承継が自社の経営課題であり、知的財産に関する承継の準備は不要だと考えている。	
未対応時の リスク (一例)	承継が必要となった際に、経営の承継を急ぐあまり、重要な知的財産に関する準備がおろそかになり、結果うまく承継できず、事業が実施できなくなるリスクがある。	
事業承継・ 知財面での 対応策 (一例)	事業承継は、時間がかかる課題であり、短時間で完了するものではない。そして、一般的な事業承継に加え、知的財産の承継についても経営課題の1つとして考え、事前準備の重要性を理解する。	

【メモ】 聞き取った内容等について書き込む

【今後の支援について】 今後の対応事項や確認事項等を備忘

【支援にあたって】

- 支援のポイントは、経営者等に対する問いかけや取組方策の一例です。話題を掘り下げつつ「見える化」を進め、解決すべき課題や準備が未だの事項を選定して「磨き上げ」へとつなげるようにしてください。

1. 準備	2. 見える化	3. 磨き上げ
-------	---------	---------

チェック項目 (大項目)	1 - 1 事業承継において社内の知恵（知的資産・知的財産）に関する事前準備をしていますか？
チェック項目 (中項目)	②事業承継に関する話題を社内で始めていますか？（経営者自ら情報発信をしている等）
現状と課題	事業承継のことは一部の経営層のみで相談している (社内での相談は始めている。従業員にとって承継話は忌み嫌われるものだと考えている。)
未対応時の リスク (一例)	自社で働く従業員においても事業承継は重要な関心事項であり、会社の将来の可能性が見えないことは、勤続するモチベーションの低下につながるリスクがある。また、事業承継（知的資産・知的財産）の見える化・磨き上げは、現場の従業員の協力がなければ困難な場合も多い。
事業承継・ 知財面での 対応策 (一例)	事業承継は従業員も感心を持つ重要な経営課題の1つと捉え、収益事業を将来に渡り継続させていくことを社内に情報発信していくことで従業員の安心につながることを理解する。 また、事業承継の作業に現場の意見を取り入れることは、スムーズかつ確実な作業の遂行につながる。

【メモ】 聞き取った内容等について書き込む

【今後の支援について】 今後の対応事項や確認事項等を備忘

○経営の知恵（知的資産・知的財産）の見える化・磨き上げチェックシート

経営者が記入した見える化・磨き上げチェックシートをもとに、今後の事業承継に取り組む際の必要事項等を確認してみましょう。

1. 準備	2. 見える化	3. 磨き上げ
-------	---------	---------

チェック項目 (大項目)	1-1 事業承継において社内の知恵（知的資産・知的財産）に関する事前準備をしていますか？
チェック項目 (中項目)	③事業承継を実施する時期を考えていますか？ (○年後を目処にしている等)
現状と課題	経営者がいつまで経営を担うのか決めていない。元気なうちは自分が頑張ると考えており、後継者が決まっておらず、引き継ぐ準備も開始できない現状にある。
未対応時の リスク (一例)	事業承継は、長い時間を要する取組であることが理解されていないことがリスクとなる。 承継を済ませた後に、「あと10年早く準備を進めていたら・・・」と邂逅する前経営者が多く、こうしたリスクを前もって理解されていない。
事業承継・ 知財面での 対応策 (一例)	まずは、「○年後に承継を完了する」といった具体的な時期を検討し、その後、大凡の目処（年次）をあらかじめ想定する（創業●周年といった節目となる年次を目標とする等）ことで、漠然とした事業承継という経営課題を、具体的な計画に沿った作業として把握しやすくなる。

【メモ】 聞き取った内容等について書き込む

【今後の支援について】 今後の対応事項や確認事項等を備忘

【支援にあたって】

- 支援のポイントは、経営者等に対する問いかけや取組方策の一例です。話題を掘り下げつつ「見える化」を進め、解決すべき課題や準備が未だの事項を選定して「磨き上げ」へとつなげるようにしてください。

1. 準備	2. 見える化	3. 磨き上げ
-------	---------	---------

チェック項目 (大項目)	1 - 2 承継を機に、自社の事業戦略の見える化・見直しについて検討していますか？
チェック項目 (中項目)	①承継を機に自社のビジネスモデルを見直す場合、その準備ができていますか？
現状と課題	現事業が厳しい状況である場合、事業承継を契機に企業成長を図りたいと考えるケースは多いが、具体的な準備・議論は未着手であり、例えば、ビジネスモデルの見直しについて検討・準備がなされていない。
未対応時の リスク (一例)	ビジネスモデルの見直し等が承継実施後となり機会損失してしまう。また、事業承継後のビジネスモデルが明確でないと、「見える化」「磨き上げ」されて承継された知的資産・知的財産が承継後の事業で有効に活用されないリスクがある。
事業承継・ 知財面での 対応策 (一例)	まずは、承継される知的資産・知的財産の検討の前提として、承継後の事業自体そのものについて、検証・検討するための議論を行い、承継後のビジネスモデルを明確化することが重要となる。その際には、外部専門家の客観的な検証・検討を活用するなどビジネスモデルの磨き上げを意識することも有効な手段となる。

【メモ】 聞き取った内容等について書き込む

【今後の支援について】 今後の対応事項や確認事項等を備忘

○経営の知恵（知的資産・知的財産）の見える化・磨き上げチェックシート

経営者が記入した見える化・磨き上げチェックシートをもとに、今後の事業承継に取り組む際の必要事項等を確認してみましょう。

1. 準備	2. 見える化	3. 磨き上げ
チェック項目 (大項目)	1 - 2 承継を機に、自社の事業戦略の見える化・見直しについて検討していますか？	
チェック項目 (中項目)	②新規事業やビジネスモデルの見直す者（現経営者・後継者）や、見直し方法について、現経営者・後継者・従業員の間で十分な意識統一ができていますか。	
現状と課題	例えば、経営者としては、現在のビジネスモデルを後継者に実施させたい、ビジネスモデルの変更等を、後継者に全てを任せたい等の考えがあるが、そのような考え方が整理されていない、共通認識として固まっていない。	
未対応時の リスク (一例)	現経営者と後継者との意思疎通ができず、現事業の承継やビジネスモデルの転換に遅延が生じる。また、ビジネスモデルの変更について従業員の理解が得られないことで、事業承継自体に支障が生じるリスクもある。	
事業承継・ 知財面での 対応策 (一例)	ビジネスモデルを見直す場合、承継までに現経営者・後継者のいずれが準備・実践するのか（もしくは、共同で準備・実践するのか）を明確にするとともに、変更後のビジネスモデルの客観的な評価を従業員に示す、従業員を含めた情報共有の場を設ける等、社としての意識統一を図る。また、この際は、外部専門家を活用するなど社内の知恵を活用したビジネスモデルの検討に着手する等、社内での理解を得やすい形を模索することも重要となる。	

【メモ】 聞き取った内容等について書き込む

【今後の支援について】 今後の対応事項や確認事項等を備忘

【支援にあたって】

- 支援のポイントは、経営者等に対する問いかけや取組方策の一例です。話題を掘り下げつつ「見える化」を進め、解決すべき課題や準備が未だの事項を選定して「磨き上げ」へとつなげるようにしてください。

	1. 準備	2. 見える化	3. 磨き上げ
チェック項目 (大項目)	1 - 2 承継を機に、自社の事業戦略の見える化・見直しについて検討していますか？		
チェック項目 (中項目)	③事業承継に向けて、経営理念や方針を整えていますか？また、必要に応じて見直しをしていますか？		
現状と課題	経営理念や方針等、自社のビジネスモデルの承継、変更の際の指針となるものが策定されていない、もしくは、策定しているが長く見直しをしていない。		
未対応時の リスク (一例)	現事業を維持する、もしくは、変更するための基本的な考え方が明確にならず、きちんと引き継がれず事業承継後の事業の方向性が曖昧になることで、事業の実施が遅延もしくは休止してしまう、円滑さを欠いてしまう等のリスクがある。		
事業承継・ 知財面での 対応策 (一例)	事業承継時に、経営戦略や事業戦略のほか、現経営者が大切にしてきた経営理念や社風等の社内の知恵についても再度見直し、事業承継後のビジネスモデル策定、事業の方向性の指針とすることで、事業承継作業の拠り所とする。		

【メモ】 聞き取った内容等について書き込む

【今後の支援について】 今後の対応事項や確認事項等を備忘

○経営の知恵（知的資産・知的財産）の見える化・磨き上げチェックシート

経営者が記入した見える化・磨き上げチェックシートをもとに、今後の事業承継に取り組む際の必要事項等を確認してみましょう。

1. 準備	2. 見える化	3. 磨き上げ
チェック項目 (大項目)	1 - 2 承継を機に、自社の事業戦略の見える化・見直しについて検討していますか？	
チェック項目 (中項目)	④事業承継に向けて、事業を推進するしくみ（業務マニュアル、職務発明規程等）を整えていますか？また、定期的に更新をしていますか？	
現状と課題	業務マニュアル、職務発明規程等の事業を推進するしくみが策定されていない、もしくは、定期的に更新されていない。	
未対応時の リスク (一例)	現事業を維持するための具体的なしくみが文字化されていないことにより、事業承継後の事業推進の進め方が曖昧となり、事業の実施が遅延もしくは休止してしまう、円滑さを欠いてしまう。	
事業承継・ 知財面での 対応策 (一例)	事業承継時に、経営理念、経営戦略、事業戦略等に加え、事業を推進するためのマニュアルや規程類も見直し、整合性を取ることで、事業承継後の従業員の労務環境整備、事業の円滑な推進を可能とする。マニュアルや規程類がない場合は、事業承継をよい機会として新規に作成することを強く認識する。	

【メモ】 聞き取った内容等について書き込む

【今後の支援について】 今後の対応事項や確認事項等を備忘

【支援にあたって】

- 支援のポイントは、経営者等に対する問いかけや取組方策の一例です。話題を掘り下げつつ「見える化」を進め、解決すべき課題や準備が未だの事項を選定して「磨き上げ」へとつなげるようにしてください。

1. 準備	2. 見える化	3. 磨き上げ
-------	---------	---------

チェック項目 (大項目)	1 - 2 承継を機に、自社の事業戦略の見える化・見直しについて検討していますか？
チェック項目 (中項目)	⑤ 自社製品のデザイン・ブランディング戦略について引き継ぐ準備ができていますか？

現状と課題	下請け業務に長く関わってきたため、自社のデザイン・ブランドまでは不要と考えている。自社のブランド価値に気づいていない。自社の技術の価値を、デザインやブランディングにより向上させることはできないと思っている。事業承継時において、自社のデザイン・コンセプト・ブランディング戦略の見直しやその引継ぎについて検討されていない。
未対応時の リスク (一例)	自社の強みを、デザイン・コンセプト・ブランディング等の方法も用いて効果的に引き継ぐことができないため、事業承継後の事業においても、自社の強み・魅力・価値を顧客に十分に伝えることができず、自社の競争力低下につながる。

事業承継・ 知財面での 対応策 (一例)	承継を機に、自社の強み、事業の方向性を再確認し、デザイン・ブランド戦略を見直すことにより、自社の価値向上の可能性も検討する。(例えば、顧客に伝えるべき自社の価値を発信する内容や方法を明確にし(言語化含む)、社内の意識共有や統一した活用を図る等) 当初より、外部専門家を活用するなど外部の知恵を活用することで、自社では気づけない新たな魅力を発見し、デザイン・ブランディング戦略に繋げることも一案である。
-------------------------------	---

【メモ】 聞き取った内容等について書き込む

【今後の支援について】 今後の対応事項や確認事項等を備忘

○経営の知恵（知的資産・知的財産）の見える化・磨き上げチェックシート

経営者が記入した見える化・磨き上げチェックシートをもとに、今後の事業承継に取り組む際の必要事項等を確認してみましょう。

1. 準備	2. 見える化	3. 磨き上げ
チェック項目 (大項目)	1 - 3 社内の知恵（知的資産・知的財産）を承継するための人員（後継者、後継者のサポート人員）は確保されていますか？	
チェック項目 (中項目)	①どのような方法で事業承継を行うかを決めていますか？（親族内承継、親族外（従業員等、第三者）承継）	
現状と課題	<p>まだまだ自分が頑張ると思っており、後継者の目処を検討していない。【無判断】</p> <p>息子が継いでくれるものと思い込んでいるが、息子が同意していない。【親族内承継】</p> <p>経営者の右腕の幹部社員が継いでくれるものと考えているが、社内で合意されていない。【社内（従業員）承継】</p> <p>外部から経営者を招くことを考えているが、まだ見つかっていない。【社外（第三者）承継】</p> <p>いざとなれば、買い取ってくれる先があると考えている。【M & A】</p>	
未対応時のリスク (一例)	<p>事業承継の方向性を決めるにあたり、後継者（候補）が誰であるかは議論のベースとなるから、後継者候補が全く決まっていない状況においては、会社の将来象が不明瞭となり、円滑に事業承継が進まない。（後継者や承継方法がある程度明確なのとそうではないのとは、今後の事業承継に対する社内の理解度や協力に対するモチベーションに影響する。）</p>	
事業承継・知財面での対応策 (一例)	<p>事業承継の議論を進める上では、後継者や承継方法をある程度想定することは大切。</p> <p>一方で、例えば、後継者候補が社内に全くいない場合であっても、見える化・磨き上げの過程で、承継後の事業の後継者候補となる人材が社外に見つかる場合がある等、後継者の候補者が後継者として相応しいかは、承継後の事業の方向性とも関連するから、親族内承継のような後継者が初めから決まっている状況ではない場合は、最終的な後継者を、性急に指名せず、承継後の事業を見据えながら検討を重ねることも考えられる。</p>	

【支援にあたって】

- 支援のポイントは、経営者等に対する問いかけや取組方策の一例です。話題を掘り下げつつ「見える化」を進め、解決すべき課題や準備が未だの事項を選定して「磨き上げ」へとつなげるようにしてください。

1. 準備	2. 見える化	3. 磨き上げ
チェック項目 (大項目)	1 - 3 社内の知恵（知的資産・知的財産）を承継するための人員（後継者、後継者のサポート人員）は確保されていますか？	
チェック項目 (中項目)	②後継者をサポートする人員を配置できていますか？（社内に確保するほか、外部の専門家を含む）	
現状と課題	社内の知恵の承継の準備は経営者と後継者で行うもの（できるもの）と考 えているため、サポート体制づくりは考えていない。（サポート体制は、かえって 承継ができなくなると考えている。）	
未対応時の リスク (一例)	経営者と後継者だけでは、本業に忙殺され経営者・後継者による準備が進 まない。 また、検討時間・専門的な知識が不足していると、安易な事業承継を選択し てしまい、重要な知的資産の承継ができずに対応事項が残ってしまうリスクも ある。	
事業承継・ 知財面での 対応策 (一例)	後継者のみならず、その後継者を支える人材を確保し、承継のプロセスに関 与させる。また、複数の専門家に関わってもらう等、外部の眼を組み入れるこ とを含めた、十分な推進体制について必要性を議論する。	

【メモ】 聞き取った内容等について書き込む

【今後の支援について】 今後の対応事項や確認事項等を備忘

○経営の知恵（知的資産・知的財産）の見える化・磨き上げチェックシート

経営者が記入した見える化・磨き上げチェックシートをもとに、今後の事業承継に取り組む際の必要事項等を確認してみましょう。

1. 準備	2. 見える化	3. 磨き上げ
チェック項目 (大項目)	1 - 4 承継対象の知的資産・知的財産を「見える化」「磨き上げ」するための体制が構築されていますか？	
チェック項目 (中項目)	①守るべき・承継するべき社内の知恵（知的資産・知的財産）の「見える化」「磨き上げ」を実行する体制はありますか？	
現状と課題	「見える化」「磨き上げ」を実行する体制がない。または、明確な体制ではなく、声だけで終わってしまっており、役割・責任が明確ではない。	
未対応時のリスク (一例)	事業承継に対する現場の意識醸成が十分ではなく、有効な見える化・磨き上げ活動が図れない。	
事業承継・知財面での対応策 (一例)	事業承継に対する業務を全社の業務として明確化し、企画・実践する担当者を指名し、具体的な役割を与える。 また、企画・実践する担当者が活動しやすいよう、他の従業員に対して協力を依頼する。	

【メモ】 聞き取った内容等について書き込む

【今後の支援について】 今後の対応事項や確認事項等を備忘

【支援にあたって】

- 支援のポイントは、経営者等に対する問いかけや取組方策の一例です。話題を掘り下げつつ「見える化」を進め、解決すべき課題や準備が未だの事項を選定して「磨き上げ」へとつなげるようにしてください。

1. 準備	2. 見える化	3. 磨き上げ
チェック項目 (大項目)	1 - 4 承継対象の知的資産・知的財産を「見える化」「磨き上げ」するための体制が構築されていますか？	
チェック項目 (中項目)	②知的資産・知的財産の「見える化」「磨き上げ」を行う体制について適宜増員等の見直しを行う準備ができていますか？	
現状と課題	「見える化」「磨き上げ」を実行する体制を適宜変更する準備ができていない（メンバーが固定化されている）。進捗を適宜把握し、必要に応じた増員等、バックアップ体制が構築されていない。	
未対応時の リスク (一例)	事業承継は、長期間を要する作業であり、メンバーが固定であると、特定のメンバーの負担が増大し、現業に支障が出てしまう。また、固定メンバーの場合、人事異動・退職等が生じた場合に体制を維持できない。	
事業承継・ 知財面での 対応策 (一例)	事業承継は、長期間を要する作業であることを踏まえ、見える化・磨き上げ活動に必要な工数を随時把握して、従業員の負荷に配慮した人員増強等を行う体制を検討する。 また、内部人材だけでは柔軟なメンバーの増減に対応しにくいことを考慮すると、外部の専門家の助言・支援を受けつつ、実践する体制を構築することも検討する。	

【メモ】 聞き取った内容等について書き込む

【今後の支援について】 今後の対応事項や確認事項等を備忘

○経営の知恵（知的資産・知的財産）の見える化・磨き上げチェックシート

経営者が記入した見える化・磨き上げチェックシートをもとに、今後の事業承継に取り組む際の必要事項等を確認してみましょう。

1. 準備	2. 見える化	3. 磨き上げ
チェック項目 (大項目)	1 - 5 事業承継について、悩みや課題を相談できる専門家・支援機関を知っていますか？また、相談をしていますか？	
チェック項目 (中項目)	①事業承継に関する悩みや課題を相談できる専門家や支援機関はいますか？また、相談をしていますか？	
現状と課題	<p>経営者独りで検討を始めており、外部に相談できる先（専門家や支援機関）はいない。（または、相談することを考えていない。外部に承継の話はするものでないと考えている。）</p> <p>知財の専門家（弁理士等）とのつきあいはあるが、出願するときに相談する程度であり、仮に、専門家・支援機関から承継について質問されても、具体的な相談をするに至っていない。</p> <p>また、専門家・支援機関に相談することはコストがかかると思って、活用を躊躇している。</p>	
未対応時の リスク (一例)	<p>経営者独り、または、少数の従業員で検討を始めるものの、事業承継の進め方や知的資産・知的財産の扱いなど、専門的な知識が必要な事項についてはよくわからないまま作業を進めてしまい、最終的には、承継内容に漏れや不備が生じ、承継後の事業リスクを大きくしてしまう。</p>	
事業承継・ 知財面での 対応策 (一例)	<p>まずは、無料の支援機関等に相談するなどすることで、自社での事業承継において、外部専門家を活用するか否か、活用することの意義やメリットを理解し、必要に応じて、どのような専門家や支援機関と、どのような接点を設けていくかを確認する。</p> <p>これまでに接点のある専門家や支援機関がある場合は、事業承継についても議論できるのかを確認する。</p> <p>事業承継時に急いで事業承継の専門家を探すことに時間を取られないように、事前に事業承継について相談する外部専門家を想定しておく。</p>	

【今後の支援について】 今後の対応事項や確認事項等を備忘

【支援にあたって】

- 支援のポイントは、経営者等に対する問いかけや取組方策の一例です。話題を掘り下げつつ「見える化」を進め、解決すべき課題や準備が未だの事項を選定して「磨き上げ」へとつなげるようにしてください。

1. 準備	2. 見える化	3. 磨き上げ
-------	---------	---------

チェック項目 (大項目)	1 - 6 事業承継について、「知的資産・知的財産」の観点から、悩みや課題を相談できる専門家・支援機関を知っていますか、また、相談をしていますか？
チェック項目 (中項目)	①知的資産・知的財産の「見える化」「磨き上げ」のための相談先が確保されていますか、専門家・支援機関を知っていますか？

現状と課題	知的資産・知的財産に関する専門家や支援機関を確保していない。 知的資産・知的財産の承継についてどのような専門家に相談するとよいか知らない。 または、知的財産・知的資産に関する専門家や支援機関に知り合いはあるが、承継については相談をしていない。外部人材に依頼することはコスト増につながると考えている。
-------	---

未対応時の リスク (一例)	事業承継時の知的資産・知的財産の承継について、外部専門家からの有益な助言が得られず、「見える化」「磨き上げ」を適切に実施することができない。 承継すべき知的資産・知的財産を適切に承継できない、自社の価値を毀損してしま等、承継後の事業リスクを大きくしてしまう。
----------------------	--

事業承継・ 知財面での 対応策 (一例)	下記の専門家や支援機関（無料相談窓口）に相談する。 【専門家】弁護士、デザイナー、ブランド専門家、経営コンサルタント（場合により複数組み合わせる） 【支援機関】知財総合支援窓口、事業引継センター、よろず支援拠点、地域金融機関 ほか
-------------------------------	---

【メモ】 聞き取った内容等について書き込む

【今後の支援について】 今後の対応事項や確認事項等を備忘

○経営の知恵（知的資産・知的財産）の見える化・磨き上げチェックシート

経営者が記入した見える化・磨き上げチェックシートをもとに、今後の事業承継に取り組む際の必要事項等を確認してみましょう。

1. 準備	2. 見える化	3. 磨き上げ
チェック項目 (大項目)	2-1 自社の経営上の強みやよいところを裏付ける社内の知恵（知的資産・知的財産）を把握（特定・説明）できますか？	
チェック項目 (中項目)	①承継対象となり得る社内の知恵（知的資産・知的財産）の種類として、どのようなものがあるか説明できますか？（経営理念、社風、社内文化、経営者ご自身の評判・ネットワーク、仕入先、ノウハウ・技能・技術・ブランド・デザイン等）	
現状と課題	現経営者が、自社の経営上の強みとなる社内の知恵（知的資産・知的財産）の種類を明確に説明できない。社内の知恵（知的資産・知的財産）に対する認識や理解に乏しい。	
未対応時のリスク (一例)	自社の経営上の強みとなる社内の知恵を明確に把握できておらず、経営者から後継者への社内の知恵の伝達が円滑に実施できないことや漏れが生じるリスクがある。	
事業承継・知財面での対応策 (一例)	事業承継の対象となる社内の知恵の多くは『見えざる資産』であり、自社を選んでもらっているあらゆる要素が対象となることをまず理解する。そのためには、まずは、企業内の知恵（知的資産・知的財産）の種類としてどのようなものがあるのかを明確に把握し、自社の状況に当てはめることにより、自社の強み・その強みの源泉となる知恵を発見するきっかけになる。	

【メモ】 聞き取った内容等について書き込む

【今後の支援について】 今後の対応事項や確認事項等を備忘

【支援にあたって】

- 支援のポイントは、経営者等に対する問いかけや取組方策の一例です。話題を掘り下げつつ「見える化」を進め、解決すべき課題や準備が未だの事項を選定して「磨き上げ」へとつなげるようにしてください。

1. 準備	2. 見える化	3. 磨き上げ
-------	---------	---------

チェック項目 (大項目)	2-1 自社の経営上の強みやよいところを裏付ける社内の知恵（知的資産・知的財産）を把握（特定・説明）できますか？
チェック項目 (中項目)	②事業承継時に経営者が社内の知恵（知的資産・知的財産）を明らか（見える化）にすることの重要性を理解できていますか？

現状と課題	知的資産・知的財産について、社内の細かな判断（組織としての知恵）を各部門長に委ねており、結果のみを報告させている（もしくは）知的資産・知的財産について、全ての判断を経営者が実施している（現場に任せられないでいる）等の理由で、現経営者が、社内の知恵（知的資産・知的財産）を明確に説明できない。
-------	---

未対応時の リスク (一例)	経営者から後継者への社内の知恵の伝達が円滑に実施できないことや漏れがあることに気がつかない。 経営者ご自身にそうした知恵が集約している場合は、後継者にそうした知恵が円滑に漏れなく承継されないことがリスクとなる。
----------------------	--

事業承継・ 知財面での 対応策 (一例)	経営者自身が社内の知恵（知的資産・知的財産）も承継すべき重要な財産であることを理解し、それらを明らかにして、漏れなく承継することの重要性を理解する。 まずは、経営者自身が身を引いた際にどのようなことが発生するのか具体的に書き出してみることで、承継すべき知恵を明らかにするきっかけになる。
-------------------------------	--

【メモ】 聞き取った内容等について書き込む

【今後の支援について】 今後の対応事項や確認事項等を備忘

○経営の知恵（知的資産・知的財産）の見える化・磨き上げチェックシート

経営者が記入した見える化・磨き上げチェックシートをもとに、今後の事業承継に取り組む際の必要事項等を確認してみましょう。

1. 準備	2. 見える化	3. 磨き上げ
チェック項目 (大項目)	2-1 自社の経営上の強みやよいところを裏付ける社内の知恵（知的資産・知的財産）を把握（特定・説明）できますか？	
チェック項目 (中項目)	③自社の経営理念、社風、社内文化、経営者ご自身の評判・ネットワークを説明できますか？	
現状と課題	株式や設備、人材が事業承継に必要な資産だと理解しているが、経営者の評判やネットワークは、後継者が簡単に引き継げるもの（もしくは、決して引き継げないもの）と考えている。その結果、経営者自身の評判や人的ネットワークは事業承継において気にかけていない。また、明確に説明できない。	
未対応時のリスク (一例)	経営者が積み上げてきた評判や人的ネットワークは、属人的な価値であり、そのままでは後継者に引き継げない場合もあり、そうなった場合は企業の競争力低下につながる。（もしくは、後継者にうまく引き継げるように対処する必要がある。）	
事業承継・知財面での対応策 (一例)	自社を選んでもらっているあらゆる要素・知恵が承継対象となり得、例えば、経営者の評判やネットワーク等の一見財産に見えないものも財産・承継対象になり得ることをまず理解する。 (説明できない場合は) 現在の評判や人的ネットワークについて、経営者自身が身を引いた際にどのようなことが発生するのか具体的に書き出し、具体的対処を検討する必要がある。	

【メモ】 聞き取った内容等について書き込む

【今後の支援について】 今後の対応事項や確認事項等を備忘

【支援にあたって】

- 支援のポイントは、経営者等に対する問いかけや取組方策の一例です。話題を掘り下げつつ「見える化」を進め、解決すべき課題や準備が未だの事項を選定して「磨き上げ」へとつなげるようにしてください。

1. 準備	2. 見える化	3. 磨き上げ
-------	---------	---------

チェック項目 (大項目)	2-1 自社の経営上の強みやよいところを裏付ける社内の知恵（知的資産・知的財産）を把握（特定・説明）できますか？
チェック項目 (中項目)	④守るべき・承継するべき取引先（仕入先）は特定できていますか？

現状と課題	事業継続のために不可欠な取引先（仕入先）が特定できていない。取引先のリストはあるが、いずれの取引先も大切であり、優先順は決められないと考えている。 先代からの取引先もあり今後も継続した取引ができるものと思っている。
-------	--

未対応時の リスク (一例)	承継時に取引先（仕入先）の継続性についての検討を怠ると、承継後、取引先（仕入先）との関係の維持や強化を維持できなくなり、事業の継続が困難になるリスクがある。
----------------------	--

事業承継・ 知財面での 対応策 (一例)	まずは、経営者が先代から引き継いだネットワークや自ら開拓してきたネットワーク、経営者以外の従業員が開拓してきたネットワークも併せて整理を書き出してみる。ネットワークには、顧客のみならず、仕入先や協業先などの協力関係にある他者も含める。 また、自社の事業に関係する他者との関係についても確認し、明確にすることで承継後のネットワークを見える化する。
-------------------------------	---

【メモ】 聞き取った内容等について書き込む

【今後の支援について】 今後の対応事項や確認事項等を備忘

○経営の知恵（知的資産・知的財産）の見える化・磨き上げチェックシート

経営者が記入した見える化・磨き上げチェックシートをもとに、今後の事業承継に取り組む際の必要事項等を確認してみましょう。

1. 準備	2. 見える化	3. 磨き上げ
チェック項目 (大項目)	2-1 自社の経営上の強みやよいところを裏付ける社内の知恵（知的資産・知的財産）を把握（特定・説明）できますか？	
チェック項目 (中項目)	⑤守るべき・承継するべきノウハウ（手順や方法の知識）は特定できていますか？	
現状と課題	ノウハウ管理は難しい・大変なものであるという認識となっている。ノウハウを整理するにも手間ばかりがかかってしまうとあきらめてしまう。ノウハウは社内に散らばっており、特定ができていない。よって、守るべき・承継するべきノウハウかどうか特定できていない。	
未対応時の リスク (一例)	事業承継時に、自社の知恵であるノウハウをうまく承継できずに事業が実施できなくなるリスクがある。	
事業承継・ 知財面での 対応策 (一例)	承継後の事業の継続・強化の観点から、ノウハウを誰が保有して、それは引き継げる状態になっているかを、経営者が理解できている状況にすることの重要性を意識する。 まずは、目録（リスト）を作成していくことからでもよいのでノウハウを特定する作業を始め、必要に応じて専門家等も交えながら、ノウハウの見える化（文字化）を進める。	

【メモ】 聞き取った内容等について書き込む

【今後の支援について】 今後の対応事項や確認事項等を備忘

【支援にあたって】

- 支援のポイントは、経営者等に対する問いかけや取組方策の一例です。話題を掘り下げつつ「見える化」を進め、解決すべき課題や準備が未だの事項を選定して「磨き上げ」へとつなげるようにしてください。

1. 準備	2. 見える化	3. 磨き上げ
チェック項目 (大項目)	2-1 自社の経営上の強みやよいところを裏付ける社内の知恵（知的資産・知的財産）を把握（特定・説明）できますか？	
チェック項目 (中項目)	⑥守るべき・承継するべき技能（能力、行為等の形式知化が困難なもの）を特定できていますか？（例：加工に関する技能）	
現状と課題	技能は従業員個人に帰属するものと捉えており、個人に属する技能を承継することは難しいと捉えている、設備の操作に関する技能はすぐに共有できると考えている等の理由から、従業員の誰にどのような技能が蓄積しているのか特定ができていない。	
未対応時の リスク (一例)	承継するべき技能を特定できないため、適切な引継ぎができなくなる。例えば、個人の技能について個人が退職する、設備の操作に関する技能について共有されず引き継ぎから漏れる等の理由により、事業の継続に支障が出てしまう。	
事業承継・ 知財面での 対応策 (一例)	従業員の誰がどのような技能を持っているかを把握し、記録していく。製造設備の操作に関する技能等の属人的な技能については、設備＋人材の合わせ技となっている場合もあり、そうした人材を含めた関連も整理しておく。	

【メモ】 聞き取った内容等について書き込む

【今後の支援について】 今後の対応事項や確認事項等を備忘

○経営の知恵（知的資産・知的財産）の見える化・磨き上げチェックシート

経営者が記入した見える化・磨き上げチェックシートをもとに、今後の事業承継に取り組む際の必要事項等を確認してみましょう。

1. 準備	2. 見える化	3. 磨き上げ
チェック項目 (大項目)	2-1 自社の経営上の強みやよいところを裏付ける社内の知恵（知的資産・知的財産）を把握（特定・説明）できますか？	
チェック項目 (中項目)	⑦守るべき・承継するべき技術（記録可能なやり方、方法、手段）は特定できていますか？	
現状と課題	自社の技術に社内のどのような要素（知的資産・知的財産）が関係しているのかを整理したことがない、整理しようとしているが実施出来ていない等の理由により、事業の継続に不可欠な技術は特定できていない。	
未対応時の リスク (一例)	事業を構成する技術を漏れなく承継することができず、非効率な実施となり多大なリスク（品質面、納期面ほか）を抱えてしまう。	
事業承継・ 知財面での 対応策 (一例)	事業（とある製品の製造）において、どのような技術や知財権が必要なのか、製品別に整理する。 製品別の整理内容を集約し全体像を俯瞰して見ることで承継の不可欠な技術を洗い出す。 洗い出された技術に対して記録可能な形で見える化する。	

【メモ】 聞き取った内容等について書き込む

【今後の支援について】 今後の対応事項や確認事項等を備忘

【支援にあたって】

- 支援のポイントは、経営者等に対する問いかけや取組方策の一例です。話題を掘り下げつつ「見える化」を進め、解決すべき課題や準備が未だの事項を選定して「磨き上げ」へとつなげるようにしてください。

1. 準備	2. 見える化	3. 磨き上げ
-------	---------	---------

チェック項目 (大項目)	2-1 自社の経営上の強みやよいところを裏付ける社内の知恵（知的資産・知的財産）を把握（特定・説明）できますか？
チェック項目 (中項目)	⑧自社の強みとなるデザイン・コンセプトを特定（把握）していますか？

現状と課題	デザインは当社には無関係だと考えている、自社の強みが技術のみならずデザイン（コンセプト）にもあるということ把握していない、自社でデザイン・コンセプトを独自に検討できるだけの体制・経験は備わっていないと考えている等の理由から、自社の強みを現す・活かすデザイン・コンセプトを特定できていない。
未対応時の リスク (一例)	デザイン・コンセプトはその企業の強みを現す・活かす1つの切り口となることが理解できておらず、デザイン・コンセプトに関するノウハウが引き継がれず、事業の継続・強化が十分にできないリスクがある。

事業承継・ 知財面での 対応策 (一例)	まずは、技術のみならずデザイン・コンセプトも他者との差異を見える化できる強みであり、企業の価値として守り、承継していく必要があることを全社で共通認識とする。 その前提のもと、承継時において、デザインの切り口からも強みの洗い出し・見える化を実践する。
-------------------------------	---

【メモ】 聞き取った内容等について書き込む

【今後の支援について】 今後の対応事項や確認事項等を備忘

○経営の知恵（知的資産・知的財産）の見える化・磨き上げチェックシート

経営者が記入した見える化・磨き上げチェックシートをもとに、今後の事業承継に取り組む際の必要事項等を確認してみましょう。

1. 準備	2. 見える化	3. 磨き上げ
チェック項目 (大項目)	2-1 自社の経営上の強みやよいところを裏付ける社内の知恵（知的資産・知的財産）を把握（特定・説明）できますか？	
チェック項目 (中項目)	⑨自社のブランディングに関する社内の知恵（知的資産・知的財産）を特定できていますか？	
現状と課題	ブランディングは当社と無関係と思っている、自社の強みをさらに強化するためのブランディングの必要性や意義を理解できてない、ブランディングを検討できるだけの体制・経験が備わっていない等の理由から、ブランディングの実施を支えている社内の知恵（知的資産・知的財産）を特定できていない。	
未対応時の リスク (一例)	ブランドはその企業の強みを現す・活かす1つの切り口となることが理解できておらず、事業承継時のブランディング活動が適切ではなく、他社製品との差異化や類似する粗悪品との区別といった対策ができないリスクがある（例えば、事業承継後に模倣品により自社製品の信頼が低下してしまった、商標登録の維持を行わなかったことでこれまで使用してきた商品名が使えなくなった等）	
事業承継・ 知財面での 対応策 (一例)	技術のみならず企業の価値としてブランドも守っていくことは顧客との関係を守っていく点においても重要であることを全社で共通認識とする。 ブランディング活動について必要な取組を洗い出し実践する。 その前提のもの、自社のブランドや、ブランディング活動の見える化を実践する。	

【メモ】 聞き取った内容等について書き込む

【今後の支援について】 今後の対応事項や確認事項等を備忘

【支援にあたって】

- 支援のポイントは、経営者等に対する問いかけや取組方策の一例です。話題を掘り下げつつ「見える化」を進め、解決すべき課題や準備が未だの事項を選定して「磨き上げ」へとつなげるようにしてください。

1. 準備	2. 見える化	3. 磨き上げ
-------	---------	---------

チェック項目 (大項目)	2-2 社内で特定された知恵（知的資産・知的財産）を適切に整理（管理）できていますか？
チェック項目 (中項目)	①自社の強みとして特定された守るべき・承継するべき知恵（経営理念、社風、社内文化、経営者ご自身の評判・ネットワーク、ノウハウ・技能・技術・ブランド・デザイン等の知的資産・知的財産）が、社内どこ（だれ）にあるのかを整理（管理）できていますか？
現状と課題	ノウハウ管理は難しい・大変・手間がかかるという理由で、見える化されている知的資産・知的財産等が社内に散らばっており、一元化されていない等、整理（管理）する作業に着手できていない。
未対応時の リスク (一例)	自社の見える化された知的資産・知的財産についても財産として適切に管理されておらず、結果的に、自社の知恵（強み）をうまく承継できずに事業が実施できなくなる・強化できないリスクがある。
事業承継・ 知財面での 対応策 (一例)	自社の知恵である知的財産・知的資産を整理する方法について、まずは、自社で運用しやすい方法を検討する。 例えば、運用マニュアルを作成することがより望ましい。

【メモ】 聞き取った内容等について書き込む

【今後の支援について】 今後の対応事項や確認事項等を備忘

○経営の知恵（知的資産・知的財産）の見える化・磨き上げチェックシート

経営者が記入した見える化・磨き上げチェックシートをもとに、今後の事業承継に取り組む際の必要事項等を確認してみましょう。

1. 準備	2. 見える化	3. 磨き上げ
チェック項目 (大項目)	2-2 社内で特定された知恵（知的資産・知的財産）を適切に整理（管理）できていますか？	
チェック項目 (中項目)	②守るべき・承継するべき社内の知恵（知的資産・知的財産）を言語化する・データベース化する等、引き継げる状況になっていますか？	
現状と課題	技術は見て覚えよと指導し、マニュアル等の言語化の対応は行ってこなかった、言語化することは技術者の成長力を損なうものと捉えてきた等の理由により、技術・ノウハウ・技能等といった社内の知恵（知的資産・知的財産）が言語化して整理される等、簡易に引き継げる状況にない（作業を行っていない）。	
未対応時の リスク (一例)	従前、口承で伝えられてきた技能やノウハウを言語化するには時間がかかり、承継のタイミングに間に合わない。言語化できていない、言語化できていても整理できていない結果、事業承継時に引継ぎ漏れ等のリスクが発生する。	
事業承継・ 知財面での 対応策 (一例)	収益の源泉となっている社内の知恵を引き継ぐ準備として、引継ぎ漏れがないように、知恵の言語化・管理の取組（書き出しやデータベース化）を社内で企画・実践していく。	

【メモ】 聞き取った内容等について書き込む

【今後の支援について】 今後の対応事項や確認事項等を備忘

【支援にあたって】

- 支援のポイントは、経営者等に対する問いかけや取組方針の一例です。話題を掘り下げつつ「見える化」を進め、解決すべき課題や準備が未だの事項を選定して「磨き上げ」へとつなげるようにしてください。

1. 準備	2. 見える化	3. 磨き上げ
-------	---------	---------

チェック項目 (大項目)	2-2 社内で特定された知恵（知的資産・知的財産）を適切に整理（管理）できていますか？
チェック項目 (中項目)	③守るべき・承継するべき社内の知恵（知的資産・知的財産）を蓄積・整理するルールはありますか？

現状と課題	技術は見て覚えよと指導し、蓄積・整理するルールが必要と考えていなかった、そうしたことは技術者の成長力を損なうものと捉えてきた、そうした仕組みを経営者と従業員と一緒に考えていく機会を確保できていなかった等の理由により、技術・ノウハウ・技能等といった社内の知恵（知的資産・知的財産）を蓄積・整理するルールがない。
-------	--

未対応時の リスク (一例)	守るべき・承継するべき社内の知恵（知的資産・知的財産）を蓄積・整理するルールがないため、蓄積・管理すべき社内の知恵が特定できず、事業承継時に引継ぎ漏れ等のリスクが発生する。
----------------------	--

事業承継・ 知財面での 対応策 (一例)	知恵を蓄積・整理するルールについて、自社の実情に合致したものを考え実践していく。 また、ルールを作成するのみならず、ルールを実行性のあるものとするために、知恵を蓄積・整理する担当者を指名し、具体的な役割を与え、知恵を蓄積・整理する担当者が活動しやすいよう、従業員に対しても協力を依頼する。
-------------------------------	---

【メモ】 聞き取った内容等について書き込む

【今後の支援について】 今後の対応事項や確認事項等を備忘

○経営の知恵（知的資産・知的財産）の見える化・磨き上げチェックシート

経営者が記入した見える化・磨き上げチェックシートをもとに、今後の事業承継に取り組む際の必要事項等を確認してみましょう。

1. 準備	2. 見える化	3. 磨き上げ
チェック項目 (大項目)	3-1 「見える化」された知的資産・知的財産と、現在または将来の事業との関係性を把握（特定・説明）ができていますか？	
チェック項目 (中項目)	①自社の知的財産の強みが収益面にどの程度関係しているか該当する強みを説明する準備ができていますか？	
現状と課題	収益と自社の強み（知的資産・知的財産）との関係を説明することは難しい・不可能と考えているため、自社の知的財産の強みが収益面（売上等）にどの程度関係しているか説明ができない。	
未対応時のリスク (一例)	事業との関係で、重要な知的財産／重要でない知的財産の選別ができておらず、結果、承継時に、重要な知的財産の引継ぎの準備がおろそかになり、うまく承継できずに事業が実施できなくなるリスクがある。	
事業承継・知財面での対応策 (一例)	「技術力がウリ」というコメントをされる場合の、『ウリ』の部分と言語化する、従業員を交えた協議の機会を作って言語化する等の作業を実践することで、売上や利益に寄与している知的財産（権）を特定して、その強みを明確に説明できるよう言語化する。	

【メモ】 聞き取った内容等について書き込む

【今後の支援について】 今後の対応事項や確認事項等を備忘

【支援にあたって】

- ・ 支援のポイントは、経営者等に対する問いかけや取組方策の一例です。話題を掘り下げつつ「見える化」を進め、解決すべき課題や準備が未だの事項を選定して「磨き上げ」へとつなげるようにしてください。

1. 準備	2. 見える化	3. 磨き上げ
チェック項目 (大項目)	3-1 「見える化」された知的資産・知的財産と、現在または将来の事業との関係性を把握（特定・説明）ができていますか？	
チェック項目 (中項目)	②保有する知的財産権（特許権・実用新案権・意匠権・商標権）は事業実施に不可欠な資源であるとして端的に説明ができますか？	
現状と課題	出願を現場や専門家任せにしており、事業と関係のない権利を保有している等の理由から、保有する特許権等の知的財産権が現事業にどのように利用されているか、また、利用されている場合に、それが事業に不可欠なのかを端的に説明できない。	
未対応時の リスク (一例)	権利を行使（実施）できなくなることで、承継後の円滑な事業の実施に影響する。 保有している権利では事業を保護できていないため、他者からの攻撃に対処できない。	
事業承継・ 知財面での 対応策 (一例)	事業実施に利用している技術とその技術に関連する知的財産権を一覧で書き出してみる。 一覧にした知的財産権の重要度を区別してみる。 未利用権利を特定して維持の要否について整理する。	

【メモ】 聞き取った内容等について書き込む

【今後の支援について】 今後の対応事項や確認事項等を備忘

○経営の知恵（知的資産・知的財産）の見える化・磨き上げチェックシート

経営者が記入した見える化・磨き上げチェックシートをもとに、今後の事業承継に取り組む際の必要事項等を確認してみましょう。

1. 準備	2. 見える化	3. 磨き上げ
チェック項目 (大項目)	3-1 「見える化」された知的資産・知的財産と、現在または将来の事業との関係性を把握（特定・説明）ができていますか？	
チェック項目 (中項目)	③新規ビジネスを成功させるため社内の知恵（知的資産・知的財産）をどう活用するか説明ができますか？ また、社内の知恵（知的資産・知的財産）を活用した新規事業への展開に関する準備ができていますか？	
現状と課題	承継を機に、新しい事業を実施したいと考えているが、将来の事業の方向性が明確ではない、既存事業や新しい事業に対して、自社の知的財産がどの程度必要となるのか整理していない等の理由により、現在・将来のビジネスモデルに知的財産がどのように活用していくか説明できない。	
未対応時のリスク (一例)	新しい事業に対して、その事業を活かす知財が適切に確保されておらず、承継後の自社事業の競争力等の低下につながる。	
事業承継・知財面での対応策 (一例)	新事業の検討にあたっては、今ある技術を利用したビジネス創出を考えると、新たなビジネスを創出するに社内技術やノウハウが生かせないかを考えることの両面での検討を行う。 そして、承継後の具体的なビジネスモデルを想定し必要な資源を確保できているか（今後も確保ができるのか）を確認する。	

【メモ】 聞き取った内容等について書き込む

【今後の支援について】 今後の対応事項や確認事項等を備忘

【支援にあたって】

- 支援のポイントは、経営者等に対する問いかけや取組方策の一例です。話題を掘り下げつつ「見える化」を進め、解決すべき課題や準備が未だの事項を選定して「磨き上げ」へとつなげるようにしてください。

1. 準備	2. 見える化	3. 磨き上げ
-------	---------	---------

チェック項目 (大項目)	3-2 承継後も事業を継続、または、新規事業展開するための知的資産・知的財産は引き継げる状態ですか？（事業継続のための「弱み」の把握と対応）
チェック項目 (中項目)	①自社の技術力・開発力の証として知的財産権（特許権・実用新案権・意匠権・商標権）を引き継げる状態ですか？

現状と課題	自社の事業を実施するにあたり、利用可能な権利の内容・件数・権利期間を把握していない（特許権・実用新案権・意匠権・商標権それぞれについて）。これにより、権利化するべき知財が確保できている／確保ができていないと返答ができない。
-------	---

未対応時の リスク (一例)	自社の強みを活かす知財の管理が不十分であり、必要な権利が確保できていない／利用（自己実施、他者への提供など）しているものの既に失効している等の理由により、将来的に、自社事業を継続できなかつたり、他社に対して権利を行使（実施）できなくなるなどのトラブルが生じ、承継後の円滑な事業の実施に影響する。
----------------------	---

事業承継・ 知財面での 対応策 (一例)	自社の知的資産・知的財産管理を担う担当者を指名し、具体的な役割を与える。 J-PlatPat等を利用して保有している知的財産権を正確に把握し、社内の認識と差異や漏れがないかを定期的に確認する。
-------------------------------	---

【メモ】 聞き取った内容等について書き込む

【今後の支援について】 今後の対応事項や確認事項等を備忘

○経営の知恵（知的資産・知的財産）の見える化・磨き上げチェックシート

経営者が記入した見える化・磨き上げチェックシートをもとに、今後の事業承継に取り組む際の必要事項等を確認してみましょう。

1. 準備	2. 見える化	3. 磨き上げ
チェック項目 (大項目)	3-2 承継後も事業を継続、または、新規事業展開するための知的資産・知的財産は引き継げる状態ですか？（事業継続のための「弱み」の把握と対応）	
チェック項目 (中項目)	②技能を有する人材（個人）はあと何年働くことができるのか把握していますか（例：定年まで○年）	
現状と課題	技術・ノウハウ・技能があと何年間実施可能なのか把握できていない。また、事業承継時（例えば、10年後）を見据えた人員計画は定めていない。	
未対応時の リスク (一例)	例えば、重要な技術者の退職に伴い、その技術者の担っていた作業を継続不能となり、生産全体に影響を及ぼしてしまう（納期に多大な遅延をもたらすなど）	
事業承継・ 知財面での 対応策 (一例)	技術者のノウハウや技能に頼っている工程がどの程度あるかも確認するとともに、このような特殊なノウハウ・技能を持つ技術者には定年後の勤続の可能性もヒアリングしながら、技術者の定年もしくは働いてくれるであろう年数を把握する。 その際は、技術伝承に要する期間や期限を設定しながら、事業の継続可能性を調査する。	

【メモ】 聞き取った内容等について書き込む

【今後の支援について】 今後の対応事項や確認事項等を備忘

【支援にあたって】

- 支援のポイントは、経営者等に対する問いかけや取組方策の一例です。話題を掘り下げつつ「見える化」を進め、解決すべき課題や準備が未だの事項を選定して「磨き上げ」へとつなげるようにしてください。

1. 準備	2. 見える化	3. 磨き上げ
-------	---------	---------

チェック項目 (大項目)	3-2 承継後も事業を継続、または、新規事業展開するための知的資産・知的財産は引き継げる状態ですか？（事業継続のための「弱み」の把握と対応）
チェック項目 (中項目)	③事業を継続するうえで不可欠な研究・開発体制（部署やチーム等）はどの程度（今後○年程度）継続できると説明できますか？
現状と課題	現時点の研究・開発体制があと何年間継続可能なのか把握できていない。
未対応時のリスク (一例)	自社の研究開発力、発明力を継続するための準備ができておらず、適切な引継ぎができなくなる。
事業承継・知財面での対応策 (一例)	事業承継を済ませるまでにどのような体制の変化があるのかを書き出す（研究開発能力の高い従業員の退職など）。

【メモ】 聞き取った内容等について書き込む

【今後の支援について】 今後の対応事項や確認事項等を備忘

○経営の知恵（知的資産・知的財産）の見える化・磨き上げチェックシート

経営者が記入した見える化・磨き上げチェックシートをもとに、今後の事業承継に取り組む際の必要事項等を確認してみましょう。

1. 準備	2. 見える化	3. 磨き上げ
チェック項目 (大項目)	3-2 承継後も事業を継続、または、新規事業展開するための知的資産・知的財産は引き継げる状態ですか？（事業継続のための「弱み」の把握と対応）	
チェック項目 (中項目)	④事業を継続するうえで不可欠な生産体制（部署やチーム等）・設備はどの程度（今後○年程度）継続できると説明できますか？	
現状と課題	事業承継を念頭に入れておらず、例えば、現時点の生産体制・設備があと何年間継続可能なの把握しておらず、また、事業承継に向けた、具体的な人員計画・設備投資計画がないまたは不明瞭である。	
未対応時のリスク (一例)	自社の技術・ノウハウ・技能が蓄積された設備や、それを稼働させる人員体制を計画的に承継することができず、結果的に、事業のスムーズな移行が困難になる。	
事業承継・知財面での対応策 (一例)	まずは、自社の技術・ノウハウ・技能で運用されている設備（加工機械など）を特定し、その設備があと何年程度は安定して稼働できるか、その設備を稼働させるための体制があと何年維持できるかを把握する。また、承継を機に、自動化を検討している場合、その移行がどの程度の期間で達成できているのかを確認しておく。	

【メモ】 聞き取った内容等について書き込む

【今後の支援について】 今後の対応事項や確認事項等を備忘

【支援にあたって】

- 支援のポイントは、経営者等に対する問いかけや取組方策の一例です。話題を掘り下げつつ「見える化」を進め、解決すべき課題や準備が未だの事項を選定して「磨き上げ」へとつなげるようにしてください。

1. 準備	2. 見える化	3. 磨き上げ
-------	---------	---------

チェック項目 (大項目)	3-2 承継後も事業を継続、または、新規事業展開するための知的資産・知的財産は引き継げる状態ですか？（事業継続のための「弱み」の把握と対応）
チェック項目 (中項目)	⑤事業を継続するうえで不可欠な営業・接客体制（部署やチーム等）はどの程度（今後○年程度）継続できると説明できますか？

現状と課題	現時点の営業・接客体制があと何年間継続可能なのか、また、事業承継に向けて、営業・接客体制をどのように移行させるのか把握できていない。
未対応時のリスク (一例)	自社の営業力を継続するための体制構築・計画策定ができておらず、適切な引継ぎができず、営業面において、企業の信頼を維持できなくなる。

事業承継・知財面での対応策 (一例)	現経営者や現営業部門のネットワーク・営業先を書き出してみる。その際、承継までの期間、承継後においてどのような変化があるのかを書き出す（営業ネットワークの豊富な従業員の退職など）ことで、何年間営業力を継続できるか、営業力を維持するためにどのような体制が必要かを検討する。
-----------------------	--

【メモ】 聞き取った内容等について書き込む

【今後の支援について】 今後の対応事項や確認事項等を備忘

○経営の知恵（知的資産・知的財産）の見える化・磨き上げチェックシート

経営者が記入した見える化・磨き上げチェックシートをもとに、今後の事業承継に取り組む際の必要事項等を確認してみましょう。

1. 準備	2. 見える化	3. 磨き上げ
-------	---------	---------

チェック項目 (大項目)	3-2 承継後も事業を継続、または、新規事業展開するための知的資産・知的財産は引き継げる状態ですか？（事業継続のための「弱み」の把握と対応）
チェック項目 (中項目)	⑥事業を実施を継続するうえで不可欠な取引先（仕入先）を確保できていますか？ また、事業を継続するうえで不可欠な取引先（仕入先・委託先等）との関係は承継後も円満・順調に続く状態ですか？

現状と課題	例えば、先代からの取引先もあり今後も継続した取引ができるものと思っている等、事業継続のために不可欠な取引先（仕入先）について、承継後も確約できていない。または、取引先（仕入先・委託先等）との関係に見直すべき点があるか見えていない。（例えば、取引先からトラブルやクレームを抱えており、今後も同様に解決できるか不透明である等）
-------	---

未対応時の リスク (一例)	承継後、取引先（仕入先）との関係の維持や強化を維持できない、取引先とのトラブルやクレームをこれまで通り解決できない等、事業継続のリスクが高まる。
----------------------	--

事業承継・ 知財面での 対応策 (一例)	経営者が自ら開拓してきたネットワーク、従業員が開拓してきたネットワークに基づいて、取引先（仕入先）を書き出し、事業承継後も、取引先との関係の円滑さと、その取引先が今後も継続して取引できるかどうかを確認する。この際には、単に取引先をリスト化するのみならず、その取引先と関係する他者（顧客、競合他社）との関係についても確認する。
-------------------------------	--

【メモ】 聞き取った内容等について書き込む

【今後の支援について】 今後の対応事項や確認事項等を備忘

【支援にあたって】

- 支援のポイントは、経営者等に対する問いかけや取組方策の一例です。話題を掘り下げつつ「見える化」を進め、解決すべき課題や準備が未だの事項を選定して「磨き上げ」へとつなげるようにしてください。

1. 準備	2. 見える化	3. 磨き上げ
-------	---------	---------

チェック項目 (大項目)	3-2 承継後も事業を継続、または、新規事業展開するための知的資産・知的財産は引き継げる状態ですか？（事業継続のための「弱み」の把握と対応）
チェック項目 (中項目)	⑦事業を実施を継続するうえで不可欠なノウハウ（手順や方法の知識）を引き継げる状態ですか？

現状と課題	ノウハウが社内に散らばっており、一元化されていない等、整理（管理）できておらず、事業に不可欠な（守るべき・承継するべき）ノウハウを引き継げる状態になっていない。
未対応時のリスク (一例)	自社の知恵であるノウハウを財産として適切に管理されておらず、結果的に、自社の事業に不可欠なノウハウをうまく承継できずに事業が実施できなくなるリスクがある。

事業承継・知財面での対応策 (一例)	特に事業を実施する上で不可欠なノウハウについては、優先的に、誰が保有して、それは引き継げる状態になっているかを、経営者を含め社内で理解できている状況にすることを意識する。 目録（リスト）を作成していくことからでもよいのでノウハウを特定する作業を始める等、まずは、自社で運用しやすい方法を検討しつつ、運用マニュアルを作成することがより望ましい。
-----------------------	--

【メモ】 聞き取った内容等について書き込む

【今後の支援について】 今後の対応事項や確認事項等を備忘

○経営の知恵（知的資産・知的財産）の見える化・磨き上げチェックシート

経営者が記入した見える化・磨き上げチェックシートをもとに、今後の事業承継に取り組む際の必要事項等を確認してみましょう。

1. 準備	2. 見える化	3. 磨き上げ
チェック項目 (大項目)	3-2 承継後も事業を継続、または、新規事業展開するための知的資産・知的財産は引き継げる状態ですか？（事業継続のための「弱み」の把握と対応）	
チェック項目 (中項目)	⑧事業を継続するうえで不可欠な技能（能力、行為等の形式知化が困難なもの）を引き継げる状態ですか？（例：加工に関する技能）	
現状と課題	事業に不可欠な（特定の従業員に属する）技能を特定できていない、引き継げる状態になっていない。	
未対応時のリスク (一例)	承継するべき技能について、適切な引継ぎができなくなる。例えば、個人の技能について個人が退職する、設備の操作に関する技能について共有されず引継ぎから漏れる等の理由により、事業の継続に支障が出てしまう。	
事業承継・知財面での対応策 (一例)	従業員の誰がどのような技能を持っているかを把握するとともに、製造設備の操作に関する技能等の属人的な技能については、設備＋人材の合わせ技となっている場合もあり、そうした人材の確保、教育を含めた長期の承継計画を策定する。	

【メモ】 聞き取った内容等について書き込む

【今後の支援について】 今後の対応事項や確認事項等を備忘

1. 準備	2. 見える化	3. 磨き上げ
-------	---------	---------

チェック項目 (大項目)	3-2 承継後も事業を継続、または、新規事業展開するための知的資産・知的財産は引き継げる状態ですか？（事業継続のための「弱み」の把握と対応）
チェック項目 (中項目)	⑨事業を継続するうえで不可欠な技術（記録可能なやり方、方法、手段）を引き継げる状態ですか？

現状と課題	事業の継続に不可欠な技術を一元管理できていない、また、引き継げる状態になっていない。
未対応時のリスク (一例)	事業を構成する技術を漏れなく承継することができず、非効率な実施となり多大なリスク（品質面、納期面ほか）を抱えてしまう。

事業承継・知財面での対応策 (一例)	事業（とある製品の製造）において、どのような技術や知財権が必要なのか、製品別に整理し、承継の不可欠な技術を洗い出し、洗い出された技術に対して記録可能な形で見える化する。 さらに、見える化された技術に対して、承継計画策定時に漏れなく承継されるように確認をする。
-----------------------	--

【メモ】 聞き取った内容等について書き込む

【今後の支援について】 今後の対応事項や確認事項等を備忘

○経営の知恵（知的資産・知的財産）の見える化・磨き上げチェックシート

経営者が記入した見える化・磨き上げチェックシートをもとに、今後の事業承継に取り組む際の必要事項等を確認してみましょう。

1. 準備	2. 見える化	3. 磨き上げ
チェック項目 (大項目)	3-3 現在または将来の事業と、「見える化」された知的資産・知的財産について、 適正な維持管理・活用をする取組ができていますか？（自社の「強み」を活かす取組）	
チェック項目 (中項目)	① 知的財産に関する管理・運営に関する方針は定めていますか？	
現状と課題	知財戦略は大企業が取り組むもので不要だと思っている、出願について弁理士事務所に一切を任せている等の理由により、自社における知的財産に関する管理・運営方針を定めて（作成して）いない。	
未対応時のリスク (一例)	これまでの知財対応に関する経営者の考え方を後継者に引き継げなくなる。このことにより、例えば、本来出願すべき技術を出願できなかつたり、逆に出願する必要がない（すべきでない）技術を出願してしまう等、戦略的な知財戦略を実施できない。	
事業承継・知財面での対応策 (一例)	もし知財戦略が無いなら、事業承継時に、戦略策定を合わせて実施する。また、定期的に見直しをする仕組みを構築する。 例えば、出願戦略について、出願すべきか秘匿すべきか（オープンクローズ戦略）や、自社技術の周辺特許出願を通じたパテントフォーリオ構築等を併せて考える。	

【メモ】 聞き取った内容等について書き込む

【今後の支援について】 今後の対応事項や確認事項等を備忘

【支援にあたって】

- 支援のポイントは、経営者等に対する問いかけや取組方策の一例です。話題を掘り下げつつ「見える化」を進め、解決すべき課題や準備が未だの事項を選定して「磨き上げ」へとつなげるようにしてください。

1. 準備	2. 見える化	3. 磨き上げ
-------	---------	---------

チェック項目 (大項目)	3-3 現在または将来の事業と、「見える化」された知的資産・知的財産について、 適正な維持管理・活用をする取組ができていますか？（自社の「強み」を活かす取組）
チェック項目 (中項目)	②事業承継に向けて、海外での知的財産権取得・維持管理（周辺特許の出願含む）を実施していますか？

現状と課題	海外での権利取得・管理について意識が高くなく、結果、海外で実施する知的財産権を取得していない、もしくは、海外で発明した技術がある、海外進出国がある等の理由で、海外での特許出願も済ませているものの、知財事務所に全てを任せている。
-------	---

未対応時の リスク (一例)	事業承継時に、承継後の事業を踏まえつつ、海外知財の承継準備や権利の維持管理を失念したことで、将来的に海外での権利侵害への対応の遅れや、維持管理の負担増等、知財面での迅速さや正確さを欠くことになる。
----------------------	--

事業承継・ 知財面での 対応策 (一例)	事業承継時に、承継後の事業内容・今後の方向性を再確認するとともに、海外展開先での知的財産権の維持についても国内同様に作業を実施していく。 外国の権利の維持管理は国内以上に必要なため、不要な権利を選定した時の対処方針等を事前に決定しておく。
-------------------------------	--

【メモ】 聞き取った内容等について書き込む

【今後の支援について】 今後の対応事項や確認事項等を備忘

○経営の知恵（知的資産・知的財産）の見える化・磨き上げチェックシート

経営者が記入した見える化・磨き上げチェックシートをもとに、今後の事業承継に取り組む際の必要事項等を確認してみましょう。

1. 準備	2. 見える化	3. 磨き上げ
チェック項目 (大項目)	3-3 現在または将来の事業と、「見える化」された知的資産・知的財産について、 適正な維持管理・活用をする取組ができていますか？（自社の「強み」を活かす取組）	
チェック項目 (中項目)	③自社の技術力・開発力の証として知的財産権（特許権・実用新案権・意匠権・商標権）を改良できていますか？	
現状と課題	自社技術（強み）について権利化する際に、周辺の知財をも先んじて抑えることでより強力な特許群を構築することができるという意識に乏しく、このような観点で、自社の技術力や開発力を説明するような知的財産の改良（周辺の権利化）ができていない。	
未対応時の リスク (一例)	自社の開発した強みについて権利範囲を拡大できるものの未対応であるため、他社の類似品の模倣を許す等、より強い権利を獲得・市場での優位性の確保等する機会を逸する。	
事業承継・ 知財面での 対応策 (一例)	自社の強みを出願する際に、出願戦略（周辺特許を含めてどのような特許群を構築するか）を意識する。特に、出願戦略は高度な知識を要するため、専門官の活用も視野に入れつつ、出願の内容のみならず時期を設定して、必要な準備を進める。	

【メモ】 聞き取った内容等について書き込む

【今後の支援について】 今後の対応事項や確認事項等を備忘

【支援にあたって】

- 支援のポイントは、経営者等に対する問いかけや取組方策の一例です。話題を掘り下げつつ「見える化」を進め、解決すべき課題や準備が未だの事項を選定して「磨き上げ」へとつなげるようにしてください。

1. 準備	2. 見える化	3. 磨き上げ
-------	---------	---------

チェック項目 (大項目)	3-3 現在または将来の事業と、「見える化」された知的資産・知的財産について、適正な維持管理・活用をする取組ができていますか？（自社の「強み」を活かす取組）
チェック項目 (中項目)	④自社の知的財産権を事業に活かす、第三者に利用させる、法的リスクを下げるための法務面の準備はできていますか？（例：秘密保持契約、利用許諾、ライセンス契約ほかの法務面の準備）

現状と課題	自社の強みを活かす上で、知的財産権のみならず、契約を含めた法務面の検討も重要であるが、契約に関するノウハウやスキルがないため準備等はできていない。
未対応時の リスク (一例)	事業承継時に、知的財産権以外の法的検討（契約等）漏れ等が発生していることに気づかず、承継時に、法務面のトラブル発生や、利益損失のリスクがある。

事業承継・ 知財面での 対応策 (一例)	事業承継時においては、知的財産権に関する引継ぎのみならず、承継後の事業に関する契約関しても再確認することが重要である。契約の検討、見直しについては、専門家等の活用も視野に入れつつ、経営者の経験等も踏まえながら検討すべきである。 既に契約がある場合は、承継後のリバイス等も考慮して、どのような経緯・目的でどのような契約を締結しているのかを整理し引き継ぐようにする。
-------------------------------	--

【メモ】 聞き取った内容等について書き込む

【今後の支援について】 今後の対応事項や確認事項等を備忘

○経営の知恵（知的資産・知的財産）の見える化・磨き上げチェックシート

経営者が記入した見える化・磨き上げチェックシートをもとに、今後の事業承継に取り組む際の必要事項等を確認してみましょう。

1. 準備	2. 見える化	3. 磨き上げ
チェック項目 (大項目)	3-4 「見える化」「磨き上げ」された知的資産・知的財産の承継方法を検討できていますか？	
チェック項目 (中項目)	①守るべき・承継するべき知的資産・知的財産をどのように引き継ぐのか (どの知的資産・知的財産を、いつ、誰が、誰にどのようにして引き継ぐのか)を決まっていますか？	
現状と課題	守るべき・承継するべき社内の知恵（知的資産・知的財産）をいつ、誰が、誰にどのようにして引き継ぐのか、社内で検討・共有できていない	
未対応時の リスク (一例)	事業承継は長期間を要する作業であるため、社内の知恵（知的資産・知的財産）をいつ、誰が、誰にどのようにして引き継ぐのか明確でないと、スムーズで漏れなく引継ぎができないリスクがある。	
事業承継・ 知財面での 対応策 (一例)	記録・整理できている社内の知恵（知的資産・知的財産）をどのように引き継いでいくのか、社内で相談・協議する機会を作り、決定された承継方法（誰に、いつ、どのように）については、事業承継計画書に記載する等、長期間経過しても情報共有できる形にしておく。 経営者が個人名で特許権や商標権を取得している場合には、事業承継時に、移転登記申請等、種々の手続きが必要である。	

【メモ】 聞き取った内容等について書き込む

【今後の支援について】 今後の対応事項や確認事項等を備忘

【支援にあたって】

- 支援のポイントは、経営者等に対する問いかけや取組方策の一例です。話題を掘り下げつつ「見える化」を進め、解決すべき課題や準備が未だの事項を選定して「磨き上げ」へとつなげるようにしてください。

1. 準備	2. 見える化	3. 磨き上げ
チェック項目 (大項目)	3 - 5 承継を機に、さらなる知財の創出、知財を活かした経営強化、開発力強化のための仕組み、ルールが構築されていますか？	
チェック項目 (中項目)	①事業承継に向けて、社内の知恵（知的資産・知的財産）を強化する方法・しくみ（改善提案等の社内制度など）を整えていますか？また、定期的に更新をしていますか？	
現状と課題	社内の知恵（知的資産・知的財産）を強化する方法やルール（社内制度）がない。また、強化するにあたり、どのような方法・ルールがあるのか、どのような方法・ルールが自社にマッチするのか知らない。また、方法・ルールがあっても、定期的に更新できていない。	
未対応時の リスク (一例)	現事業を支える自社の知恵を市場環境の変化に対応して磨き上げることができず、将来的に、市場での競争力を失うリスクがある。	
事業承継・ 知財面での 対応策 (一例)	承継の機会を捉えて、単に知恵をそのまま承継するのみならず、社内の知恵を強化・充実させていく方法・ルール（改善提案等の社内制度）を組み込むことを検討し、実践し、定期的に見直す。 この際、内部人材だけでは無く、外部の専門家の客観的な意見を踏まえつつ検討し、実践することも有効である。	

【メモ】 聞き取った内容等について書き込む

【今後の支援について】 今後の対応事項や確認事項等を備忘

○経営の知恵（知的資産・知的財産）の見える化・磨き上げチェックシート

経営者が記入した見える化・磨き上げチェックシートをもとに、今後の事業承継に取り組む際の必要事項等を確認してみましょう。

1. 準備	2. 見える化	3. 磨き上げ
チェック項目 (大項目)	3-5 承継を機に、さらなる知財の創出、知財を活かした経営強化、開発力強化のための仕組み、ルールが構築されていますか？	
チェック項目 (中項目)	②事業承継に向けて、社内の知恵（知的資産・知的財産）を強化するしかけ（定期的な社外コンペ（グッドデザイン賞ほか）への参加など）を整えていますか？また、定期的に更新をしていますか？	
現状と課題	技術・ノウハウ・技能等（社内の知恵）を強化するしかけがない。また、強化するにあたり、どのようなしかけがあるのか、どのようなしかけが自社にマッチするのか知らない。また、しかけがあっても定期的に更新できていない。	
未対応時のリスク (一例)	現事業を支える自社の知恵を市場環境の変化に対応して磨き上げることができず、将来的に、市場での競争力を失うリスクがある。	
事業承継・知財面での対応策 (一例)	承継の機会を捉えて、単に知恵をそのまま承継するのみならず、知恵を強化・充実させていくしかけ（具体的なプロジェクト）を運用し、定期的に見直す。この際、内部人材だけでは無く、外部の専門家の客観的な意見を踏まえつつ検討し、実践することも有効である。	

【メモ】 聞き取った内容等について書き込む

【今後の支援について】 今後の対応事項や確認事項等を備忘

【支援にあたって】

- 支援のポイントは、経営者等に対する問いかけや取組方策の一例です。話題を掘り下げつつ「見える化」を進め、解決すべき課題や準備が未だの事項を選定して「磨き上げ」へとつなげるようにしてください。

1. 準備	2. 見える化	3. 磨き上げ
-------	---------	---------

チェック項目 (大項目)	3-5 承継を機に、さらなる知財の創出、知財を活かした経営強化、開発力強化のための仕組み、ルールが構築されていますか？
チェック項目 (中項目)	③従業員に対してデザイン能力の向上させる取組を進めていますか？

現状と課題	デザイン能力の向上させる取組は実施できていない。
未対応時の リスク (一例)	デザインはその企業の強みを現す・活かす1つの切り口である一方、従業員のデザイン能力の向上を怠ると、承継後の事業の継続・強化がチャンスを逸するリスクがある。

事業承継・ 知財面での 対応策 (一例)	承継の機会を捉えて、自社のデザインを活かす活動について必要な取組を洗い出し、取組としてどのような点を強化・改善すべきかをあらかじめ整理しておく。この際、内部人材だけでは無く、詳しい外部専門家の客観的な意見を踏まえつつ検討し、実践することも有効である。
-------------------------------	---

【メモ】 聞き取った内容等について書き込む

【今後の支援について】 今後の対応事項や確認事項等を備忘

○経営の知恵（知的資産・知的財産）の見える化・磨き上げチェックシート

経営者が記入した見える化・磨き上げチェックシートをもとに、今後の事業承継に取り組む際の必要事項等を確認してみましょう。

1. 準備	2. 見える化	3. 磨き上げ
チェック項目 （大項目）	3 - 5 承継を機に、さらなる知財の創出、知財を活かした経営強化、開発力強化のための仕組み、ルールが構築されていますか？	
チェック項目 （中項目）	④ 自社のブランディングに関する取組を進めていますか？	
現状と課題	ブランディングに関する取組が実施できていない。	
未対応時の リスク （一例）	ブランドはその企業の強みを現す・活かす1つの切り口である一方、事業承継時のブランディング活動が適切でないと、他社製品との差異化や類似する粗悪品との区別といった対策ができないリスクがある（例えば、事業承継後に模倣品により自社製品の信頼が低下してしまった、商標登録の維持を行わなかったことでこれまで使用してきた商品名が使えなくなった等）	
事業承継・ 知財面での 対応策 （一例）	承継の機会を捉えて、自社のブランディング活動について必要な取組を洗い出し、取組としてどのような点を強化・改善すべきかをあらかじめ整理しておく。この際、内部人材だけでは無く、詳しい外部専門家の客観的な意見を踏まえつつ検討し、実践することも有効である。	

【メモ】 聞き取った内容等について書き込む

【今後の支援について】 今後の対応事項や確認事項等を備忘

【支援にあたって】

- 支援のポイントは、経営者等に対する問いかけや取組方策の一例です。話題を掘り下げつつ「見える化」を進め、解決すべき課題や準備が未だの事項を選定して「磨き上げ」へとつなげるようにしてください。

1. 準備	2. 見える化	3. 磨き上げ
-------	---------	---------

チェック項目 (大項目)	3 - 5 承継を機に、さらなる知財の創出、知財を活かした経営強化、開発力強化のための仕組み、ルールが構築されていますか？
チェック項目 (中項目)	⑤従業員の発明促進に資するしくみ（改善提案制度、職務発明規定等）を有していますか？また、定期的に更新をしていますか？
現状と課題	発明促進に資するしくみ（改善提案制度、職務発明規定等）がない。また、どのようなしくみがあるのか、どのようなしくみが自社にマッチするのか知らない。また、しくみがあっても定期的に更新できていない。
未対応時の リスク (一例)	職務発明や改善提案を通じた事業改善や発展・磨き上げが図れず、将来的に、市場での競争力を失うリスクがある。
事業承継・ 知財面での 対応策 (一例)	承継の機会を捉えて、単に知恵をそのまま承継するのみならず、従業員の発明意識の転換を促す。 この際、内部人材だけでは無く、外部の専門家の客観的な意見を踏まえつつ検討し、実践することも有効である。 また、しくみづくりからその管理について後継者に関わらせることで社内の知恵に触れる機会を確保する。

【メモ】 聞き取った内容等について書き込む

【今後の支援について】 今後の対応事項や確認事項等を備忘

6. 磨き上げのための支援上のポイント

支援者として、以下の観点で支援対象企業の経営者と向き合うことが重要となります。以下は一例となりますが、経営者の認識を真っ先に確認することが重要です。

- 事業承継は中長期的な視点で取り組むことが理解できているか？
- 自社の知的資産・知的財産の価値をつなぐストーリーができているか？
- 自社の知的資産・知的財産をより強くする方法を理解できているか？
- 顧客に発信・理解してもらう「自社の知恵」は社内で整理できているか？
- ノウハウ管理において社内制度が重要となることを理解できているか？
- 事業承継が新たなビジネスモデルを検討し、実践する機会になることを理解できているか？

(調査実証研究の過程で得た知見より)

支援ケーススタディ「見える化・磨き上げ」その1 親族内承継A社

事業承継について経営面の承継は済ませているが、知的資産・知的財産の承継が十分ではないと感じてきた。先代と現経営者を交えた社内の知恵の伝承に関するプロジェクトを通じた知的財産の引き継ぎや磨き上げを目指す取組に着手することができた。

支援ケーススタディ「見える化・磨き上げ」その2 親族外承継B社

新規事業創出に向けた開発活動を通じて、自社の知恵がどこに所在しているかを整理することができた。その知恵をもっと充実させたいと考えている。知財活動が活発だった頃のとの比較から、必要な対応事項を整理することができ、今後の行動が明確になった。

支援ケーススタディ「見える化」親族内承継C社

日頃から経営者と後継者が現業を通じて意見交換はしてきたが、外部専門家を交えた議論を通じて、それぞれが描く将来イメージが共有され、現経営者が後継者に対してどのようなサポートを実施するとよいか明確に理解できた。

【×E】

